

## IV 公共施設等のあり方

### 1 基本的な考え方

- ◆全国の地方自治体では、厳しい財政状況が続く中で、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されるため、老朽化が進む公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化し、公共施設等を最適に配置する取組が進められています。
- ◆本市においても、少子高齢化の進展による人口構造の変化や社会保障費の増大、個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴うニーズの変化など、将来の公共施設等を取り巻く環境が大きく変化することが予想され、公共施設等を現状のまま維持していくことが極めて困難となります。
- ◆そのためには、財政見通しも明らかにしながら、福祉、医療、子育て、教育等の様々な市民サービスをはじめ、限られた財源の中で道路・橋りょう等の新たな公共投資や公共施設等の保全・更新を効果的・効率的に進める視点と、「選択と集中」という視点の両面から、行政サービス全体のあるべき水準を検討していく必要があります。

### 2 公共施設等の現状と課題

- ◆本市では、昭和 53 年から昭和 61 年までの間に多くの施設が整備され、今後、これらの施設では一般的に大規模改修が必要となるなど、維持管理の問題を抱えています。
- ◆また、公共施設等の立地状況や利用状況等を踏まえると、現状の公共施設等を単に改修・更新するだけでなく、社会の変化やこれから求められるニーズを見据えながら、それぞれの公共施設等にあった改修・更新を検討する必要があります。

#### 「維持管理」の現状

- ◇建築年数が 30 年以上となる施設が約 64%に及んでいます。(R3.9 現在)
- ◇施設・設備の老朽化が進み、維持管理や改修等に多くの費用が必要です。

#### 「機能」「立地」の現状

- ◇基本的に一つの施設に一つの機能のみがある場合が多い状況です。
- ◇同じような機能を持つ施設が近くに立地している場合があります。

#### 「利用状況」の現状

- ◇同じ人が利用するなど、施設を利用する人が限られているケースが見られます。
- ◇市民の価値観やライフスタイルと同様、施設の利用ニーズも多様化しています。

- ◇公共施設等を整備した時代から、公共施設等や行政サービスに求められる内容が変化している。
- ◇市民活動や地域活動に対する考え方が多様になり、施設が十分に活用されていない。
- ◇少子高齢化が本格化していく中で、財政的な観点から、全ての公共施設等を改修・更新していくことは難しい。

### 3 今後の取組方針

- ◆次世代に過大な負担を残さないためにも、公共施設等の安全性を確保しつつ、計画的かつ効果的な改修を行うため、施設の改修履歴と現地調査の結果を踏まえて、長期的な視点に立った施設の長寿命化とコスト平準化を推進します。
- ◆時代の変化に合わせて求められる公共施設等が変化し、人口減少時代において健全な財政運営を図る必要があることから、更新・統廃合・長寿命化等を基本としつつ、求められる市民サービスに応えるための公共施設等の集約化・複合化の検討を行います。
- ◆公共施設等の更新・統廃合・長寿命化に当たっては、人口減少や人口構成の変化に伴う需要の変化、地区の特性、各建物施設の利用状況や空きスペースなどを踏まえ、保有施設の集約化・複合化による公共施設等の総量の適正化を図ります。

#### 集約化

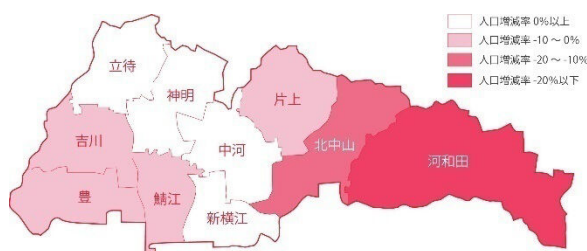
- 公共施設等の更新に合わせて、施設の機能の集約化を検討します。
  - 長期的な視点のもと、既存の公共施設等の状況や地域の特性、将来人口のバランスや公共施設等のあり方、市民活動や地域活動等を踏まえ、効率的な施設配置を検討します。
- ⇒市民活動や地域活動の推進、  
地域コミュニティの活性化
- ⇒維持管理コストの縮減、  
公共施設等のスリム化、効率的な施設運営

#### 複合化

- 複数の施設のサービスを組み合わせることで行政サービスの向上や施策間の連携強化を図ります。
  - 特定の目的にとらわれないボーダレスな施設運用により、多くの世代に利用され、幅広い利用者の交流を検討します。
- ⇒複合化・多機能化による相乗効果や付加価値の創出
- ⇒行政サービスの質の向上、  
魅力的な機能による地域の活性化
- ⇒共用部分の効率化など維持管理コストの縮減、公共施設等のスリム化

#### ●地域の特性

人口増減率(R5-H25)



高齢化率(R5)



子育て支援施設(保育所、幼稚園、児童館等)の立地状況



教育・文化施設(図書館、文化会館等)の立地状況  
(※P.37、39、41、43、45 参照)



※施設数は小学校・中学校・高校、公民館を除く

- ◆より一層、施設が利用されるよう、指定管理者制度や PFI などの民間活用手法の導入を検討するとともに、地元が主体として利用している施設は地元への譲渡を進めるなど、地域主体の地域運営の推進を検討します。
- ◆全庁的マネジメント体制を見直し、計画の進捗管理および計画の見直しを着実に実施します。
- ◆省エネルギー化や管理業務の包括委託等による光熱水費や維持管理委託費などの削減、施設跡地の売却や施設整備基金創設等による追加投資の捻出など効果的・効率的な管理運営に努めます。

## 4 取組の実施方針

### ●定期的な点検・診断と結果の蓄積

施設管理者による定期点検を徹底するとともに、施設点検結果データを整理・蓄積し、今後の施設管理に活用します。

### ●維持管理・修繕・更新の実施

蓄積した点検データを活用し、修繕計画の優先順位や個別施設計画の見直しを検討します。

建物を更新する際は、充実した縮小の視点を取り入れ、集約化・複合化に合わせて、市民サービスの向上を図ります。

### ●計画的な長寿命化

建物施設やインフラ施設において点検・診断・維持・修繕等のデータを活用し、計画的・効果的な修繕を実施し長寿命化を図ります。

個別に策定された長寿命化計画については、各計画に基づいて実施するとともに、長寿命化の実施にあたっては、長期的視点に基づいたコスト平準化のための集約化・複合化も検討します。

### ●低・未利用資産活用

公共施設等の集約化・複合化等の実施に伴い余剰となる低・未利用資産(土地・建物・スペース等)については、他目的への転用または普通財産化して民間への貸付あるいは売却による歳入確保を検討します。

### ●耐震改修

施設の定期点検結果から、危険箇所については優先的に修繕を実施し、安全確保に努めていきます。

非構造部材の耐震化やエレベーターの耐震対策などを順次実施し、更なる安全性確保に努めます。

### ●ユニバーサルデザイン

老若男女や障がいの有無にかかわらず、誰もが地域の中で安全かつ円滑に活動できるようユニバーサルデザインに配慮した公共施設等の整備を進めます。

「福井県福祉のまちづくり条例」や「第4次鯖江市地域福祉計画・第5次鯖江市障がい者計画」等に基づき、公共施設等の改修・更新等を行う際には、施設の利用状況及び耐用年数等を踏まえ、誰もが安全に安心して利用できるようユニバーサルデザインの視点を取り入れた整備を推進します。

### ●脱炭素化

脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現に向け、公共施設等の改修・更新等を行う際には、省エネルギー設備や再生可能エネルギーの導入など、脱炭素化の視点を取り入れた整備を推進します。

## 5 持続可能な財政基盤の堅持

◆本市が描くビジョンを達成するために、持続可能な財政基盤を堅持していくことが重要となります。本市においては、公共施設等の更新・統廃合・長寿命化等を含む戦略的な政策の展開および諸課題への機動的な対応を可能にするため、長期的な視点に立った健全な財政運営により、年度間負担の平準化を図ります。

### ●基金を活用した収支の調整

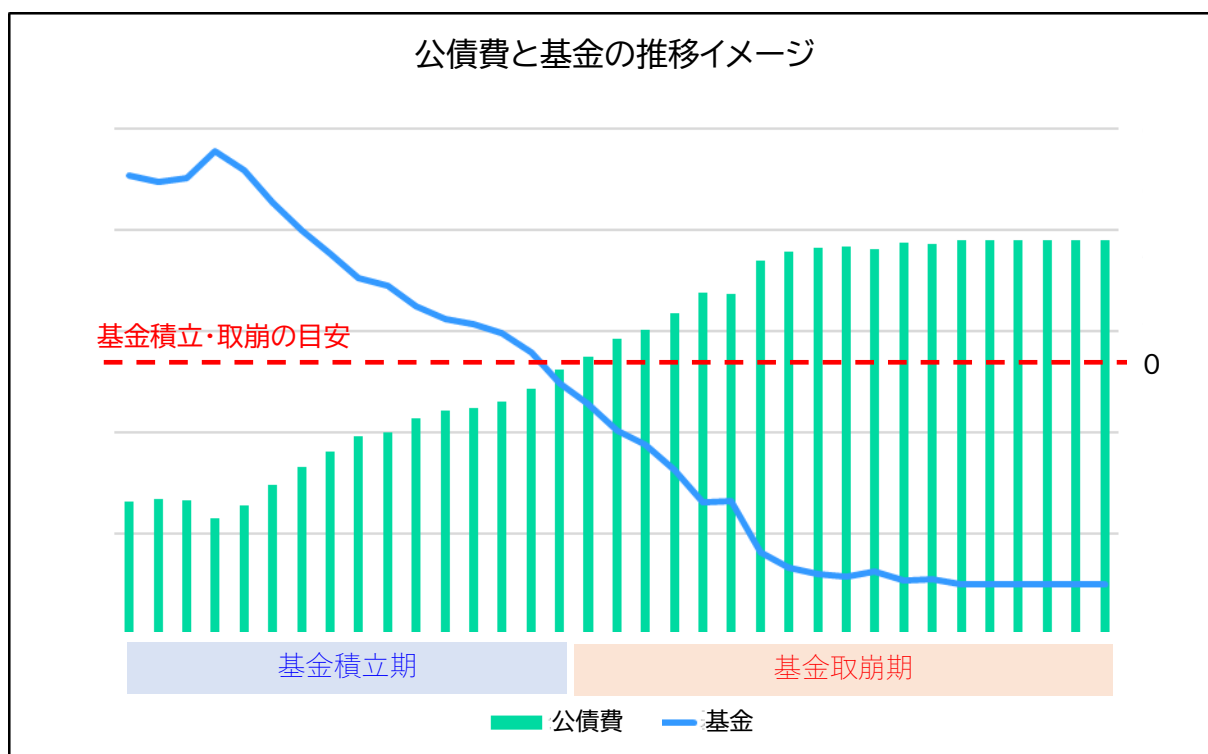
◇長期的な視点から公債費や特殊財政需要の動向を見据えつつ、財政調整基金をはじめとする各種基金の積み立て、取り崩しにより収支の調整を図ります。

### ●大規模事業実施時期の調整

◇公共施設等の必要性はもちろんのこと、危険度や老朽度の観点から事業に優先順位づけを行い、短期間に大規模事業が集中しないように、できる限り計画の調整を図ります。

### ●市債発行・残高の調整

◇後年度に交付税措置のある優良債の活用はもとより、公債費が極端に膨れ上がることがないように長期的な視点から動向を注視し、財政調整基金等の活用により市債発行額の抑制を図るとともに、減債基金も活用しながら市債残高の調整を図ります。



◇今後約 20 年間、小中学校や公民館の長寿命化事業をはじめとする公共施設等の大規模改修事業が切れ目なく続くため、公債費が確実に上昇します。義務的経費である公債費の上昇は、財政の硬直化を招くため、公債費の翌年度以降 30 年間の見込額の平均値を目安に、公債費がそれを下回る年度は基金に蓄える、上回る年度は基金を取り崩すといった収支調整により、年度間負担の平準化を図ります。